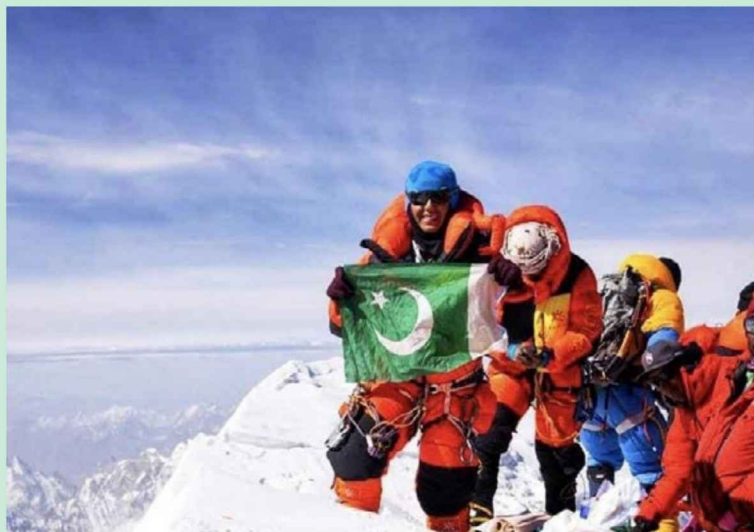


NO : 279
2023/ 3

パーキスターン

『パキスタン関連ミニ用語集』

深町宏樹



サミナ・ベグ (Samina Khayal Baig) が
パキスタン人女性初の K2 (8,611m) 登頂者に
寺沢玲子



カラチー潮騒記 6
松田和憲

カラチー潮騒記 6

松田和憲

2023年1月から2月にかけて、パーキスタンにおいて一時代を築き上げた大物たちがこの世を去った。2023年2月5日のパルヴェーズ・ムシャラフ元大統領の訃報⁽¹⁾は、世界中の多くのメディアで報道されたものの、超有力財界人及び文化人三名の訃報については、日本のメディアではおそらく報道されていないため、ここで紹介したい。

1. バイラーム・D・アーヴァーリー (Byram D. Avari, 1942 - 22 January 2023)

バイラーム・D・アーヴァーリーは、カラチー三大五つ星ホテル⁽²⁾の一つである、アーヴァーリー・ホテル⁽³⁾の経営者であり、この他にもカラチー市内のビーチ・ラグジャリィ・ホテルの他、ドバイやカナダにもホテルを運営していた。彼の家系はパルスィー（ゾロアスター教）であり、父の亡き後、彼はパーキスタンのパルスィー・コミュニティにおける実質的な指導者であったといっても過言ではない。彼はホテル業だけではなく、スポーツの分野でも活躍し、1978年と1982年のセーリング・アジア大会で2度の金メダルを獲得した。また1985年から在カラチ・カナダ名誉領事も務めていた。



Byram D. Avari

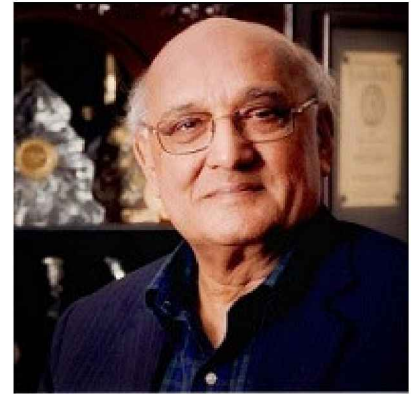
(1) 2022年6月頃に患った難病の治る見込みが無い場合、パキスタンに帰国したいという希望があったようであるが、結局叶わなかった。これに関しては、因縁のあるムスリム連盟ナワーズ派 (PML-N) の最高指導者であるナワーズ・シャリーフも、その希望を尊重する姿勢を見せていた。('No Personal Enmity': Nawaz Calls on PML-N Govt to Facilitate Musharraf's Return to Pakistan, Dawn. (June 14, 2022) <<https://www.dawn.com/news/1694800>> (閲覧日 2023年3月26日、以下全て同じ)) ムシャラフ統治下では、政治的反対者の強制失踪を奨励したとも言われており、ナワーズ・シャリーフやベーナズィール・ブットー (1953-2007) は選挙に参加することを禁じられ、結果として国外に亡命した。(Shah Meer Baloch. Pervez Musharraf's Return to Pakistan Reopens Debate about his Rule, The Guardian. (June 19, 2022) <<https://www.theguardian.com/world/2022/jun/19/pervez-musharraf-wish-to-return-to-pakistan-reopens-debate-about-his-rule>>)

(2) アーヴァーリー・ホテルの他に、パール・コンチネンタル・ホテル、マリオット・ホテルが有名である。これらいずれかのホテルにお世話になった人も多いのではないだろうか。

(3) カラチーのアーヴァーリー・ホテルには、日本食レストランのFujiyamaがあるものの、現在改装工事のため、2階のビュッフェにて寿司やスイーツ等の食べ放題が19時30分から提供されている。2023年3月断食月開始前の値段は一人5,000PKR。

2. アムジャド・イスラーム・アムジャド (Amjad Islam Amjad, 1944 - 10 February 2023)

アムジャド・イスラーム・アムジャドは、ウルドゥー文学者として知られ、詩人、脚本家、劇作家、作詞家として活躍していた。彼は2月10日に心停止で亡くなった。奇しくも、2月9日から3日間ラーホールにて開催していた2023年パーキスタン文学フェスティバルに登壇予定であった。



Amjad Islam Amjad

アムジャドはシアールコートで生まれ、ラーホールで育った。イスラミア・カレッジを卒業後、パンジャブ大学ウルドゥー文学修士号を取得し、その後MAOカレッジにて教鞭をとった。1975年から4年間、国営放送局 (PTV) のディレクターも務めた。彼は70冊以上の著作をはじめ、大ヒットドラマ『ワーリス (Waris)』⁽⁴⁾の脚本や、ヌスラット・ファテ・アリー・ハーンの甥にあたるラーハト・ファテ・アリー・ハーンのボリウッドにおけるデヴュー曲Man kī Lagan⁽⁵⁾の作詞も担当した。以下は、彼の有名なウルドゥー詩「ある試験教室の中で」の一部の拙訳である。

人生の問題用紙の

全ての問題は必須であり、全ての問題は難題である

盲目な目で見ている、問題用紙を

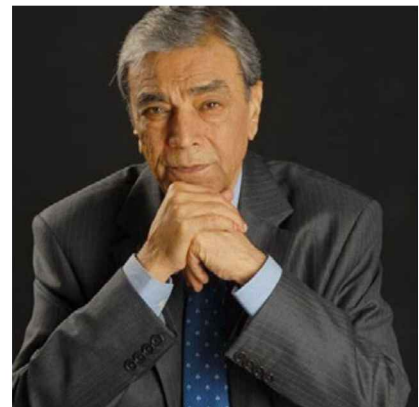
不注意な手によって

作られる回答について 私は指を動かしている

3. ズィアー・ムヒーウッディーン (Zia Mohyeddin, 1931 - 13 February 2023)

ズィアー・ムヒーウッディーンは、パーキスタンとイギリスで活躍した映画俳優、放送作家、プロデューサー、監督である。

彼は幼少期をラーホールで過ごし、1953年から2年間ロンドンの王立演劇芸術アカデミーで修業を積んだのち、A Passage の Dr. Aziz 役としてウエスト・エンドでデヴューを果たした。1962年公開の映画『アラビアのロレンス』では Tafas 役として出演。その後、パーキスタンに戻り、テレビトーク番組 Zia Mohyeddin Show (1969-



Zia Mohyeddin

(4) パンジャブのザミンダール (封建領主) の対立模様を焦点を当てた作品で、1979年12月から80年月まで放映された。

(5) 2003年公開のインド映画「Paap (罪)」の劇中歌として使用されている。〈<http://www.namast-e-bollywood.com/review/5952.html>〉

1973) で有名になった。1979 年以降のズィアーウル・ハク軍事政権下では、イギリスに戻った。そして英国のアジア人キャストによる最初のソープ・オペラであるファミリー・プライド (1991-1992) を制作、主演を演じている。後に、ズィアー・ムヒーウッディーンはウルドゥー語の詩や散文、英文学の朗読を行うようになり、パーキスターンにおけるミスター朗読⁽⁶⁾であると、私は考えている。2005 年にはカラーチーに National Academy of Performing Arts が設立され、彼が会長を務めた。

彼は国際ウルドゥー会議や文学フェスティバルのパトロンと知られている。実は 2022 年 12 月にアーツ・カウンシルにて開催された国際ウルドゥー会議にて、彼の朗読を間近で目撃した。当初は彼の朗読を聞く予定はなかったため、前のセッションが終わり会場から出ようと試みていたが、誰も外に出ることがなく、多くの人が会場内に入ったため、そのまま会場内に留まっていた。会場内でとくに目を引いたのが若者の多さで、若い世代も彼の朗読に惹かれていることを実感した。もう彼はこの世にいないものの、YOUTUBE 等のおかげで彼の音声はアーカイブとして残っている。気になる方はぜひ彼の朗読⁽⁷⁾を検索していただきたい。

(まつだ かずのり・京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 特任研究員)

(6) 日本のミスター朗読 (朗読数歴代 1 位) として、二瓶鮫一が挙げられる。

(7) インドの Rekhta 財団の HP 上においても、彼の朗読を確認することができる。 <https://www.rekhta.org/Zia>